

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

日本鍼灸医術の形成—近世医学史の再構築

Formation of Japanese acupuncture-moxibustion : Reconstruction of the medical history in medieval and early modern Japan

2. 研究代表者氏名

長野 仁

Nagano Hitoshi

3. 研究期間

2018年4月-2021年3月(3年目)

4. 研究目的

現代鍼灸は、極端な欧化政策による鍼灸廃絶の危機を回避するために、医科学的アプローチによる臨床研究を最優先課題とし、医道の伝統を継承しつつも歴史的な側面は置き去りにしている。日本医学の通史を振り返る時にも、近代医学の系譜として先駆的業績を顕彰するに止まり、近世に大いに発展した鍼灸医術の種々の流儀や理論的構造に論及することはない。しかし、京都大学の富士川文庫をはじめとして、数多くの流儀書、理論書が伝存しており、日本医道における技術的伝統は手がつけられないままに埋没している。そこで、本研究では、鍼灸関連の古医書の総合的な考察を試み、鍼灸医術の形成、伝承形態の具体的様相を明らかにし、多角的なアプローチによって鍼灸医術の本質的特色を探る。そして、「日本鍼灸学」という新分野を開拓し、医薬、鍼灸の学界に遡及的考察を行う研究基盤を構築することによって、近世医学史の再構築を図る。

In order to avoid the crisis of the abolition of acupuncture and moxibustion due to Europeanization policy, the modern proponents and practitioners of the field have made clinical research from a medico-scientific perspective a top priority, while they have not made much of historical research in spite of inheriting from the tradition. When looking back on history, they have only praised the pioneering achievements related to modern medicine, and have seldom discussed diverse methods and theories that have been greatly developed in the early modern period. However, in such collection of medical books as the Fujikawa collection of Kyoto University, there remain many books on such methods and theories and these technical traditions are still buried untouched.

In this study, we aim to comprehensively evaluate these medical books, clarify the specific aspects of the formation and tradition of acupuncture and moxibustion medicine, and explore the essential features of the medicine from historical perspective. Through these, we will attempt to reconstruct the history of early modern medicine, as well as to develop a new field of “Japanese acupuncture and moxibustion studies” which would provide a foundation to reflect the research results in the fields of medicine, pharmacy, and acupuncture and moxibustion.

5. 研究成果の概要

研究開始当初は現存最古の鍼道伝授書である『針聞書』を考究対象に取り上げ、著者である茨木元行が唱えた今新流の伝播を追跡し、近世鍼術の流派がどのように分岐していったのかを系譜づけながら、その著作に図解されたハラノムシの病理観や治療法、診断術をめぐる諸問題を討議した。また、『五体身分抄』『五体身分集』という中世の抄物医書について、『医心方』から『福田方』に至る間の空白を埋める資料的価値を見出し、東京国立博物館資料館等の資料調査を行うとともに、研究会で討議した。そのほか、特別講師や班員の研究発表を通して、近世社会に大いに発達した針術、灸法について遡及的な考察を試み、その源流と発展の具体的様相を探ることができた。

本研究班での研究成果は、2020年1月12日に北里大学で開催された第7回鍼灸医学史研究発表会で『五体身分抄』『五体身分集』に関する研究発表（長野仁、富田貴洋の共同発表）を行ったほか、明智光秀の『針薬方』めぐっては、NHK京都放送局と連携した公開イベントを企画して、2020年2月8日に芝蘭会館山内ホールにて開催し、研究期間中に広く一般にも公開することができた。また、本研究による史料発掘と研究調査の成果として、後藤良山、香川南洋の門人録をはじめとする新出資料について、その影印版を解題、索引等を附し、近世医家資料集として三冊を本年度末に刊行する予定である。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

2018年5月12日、茨木元行顕彰会発足式（茨木市鍼灸師会と共催、於茨木神社）
同13日、茨木元行『針聞書』編纂450周年・完全覆刻版刊行記念イベント（於茨木市立生涯学習センターきらめきホール、研究班発足に先立つ『針聞書』完全覆刻版刊行の記念イベント）
同9月9日、茨木神社復旧支援チャリティー講演会（後援、於茨木神社参集殿）
2020年2月8日 一般公開セミナー「明智光秀は名医!?だった一転換期の医術と戦国武将一」（於京都大学芝蘭会館山内ホール）

同9日 府民公開講座「鍼の聖地いばらき in OSAKA 早春ハラノムシまつり」(後援、於茨木市福祉文化会館オークシアター)

同3月1日 富山鍼灸学会学術講演会(富山鍼灸学会との共催、於富山県民会館701号室)

同3月『香川南洋門人録』(近世医家新出史料集第二冊)(担当:永塚憲治・松岡尚則)刊行

2021年3月

近世医家新出史料集Ⅰ 武田時昌監修・長野仁編集『改訂版 儒医姓名録—後藤良山門人録の影印・翻刻』(長野仁解説の加筆訂正)

近世医家新出史料集Ⅱ 武田時昌監修・永塚憲治編集『一本堂南洋先生 門人録 増補版』(人名索引の補正及び附録として新出資料『修庵香川先生易弁』の影印・翻刻および解題(武田時昌))

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

中医学、韓医学と比較しながらの検討を目的に、台湾、韓国からの特別講師を招いた講演会を今年度に予定であったが、感染症拡大の影響により延期となったため、来年度中に、可能であれば対面方式も取り入れた形態での開催を予定している。同様に計画通りの作業が困難となった松江歴史館・いづも財団・島根県立盲学校と協力しての芦田家文書の目録作成については、やはり予定を繰り下げて来年度以降も作業を継続する。また、班員によるこれまでの研究成果をまとめた論文集刊行のための編集作業を進め、来年度中の刊行を目指している。今後は、本研究班に参加した中堅、若手研究者を中心に国内各所の鍼灸関連書の発掘と研究調査をおこなうグループを組織し、研究に資する基礎資料と成果の蓄積、人的資源の継続的な発展、拡充を図り、日本鍼灸医術研究進展への布石としたい。